

灯る

—ラクイラ精神病院のリノベーション計画—

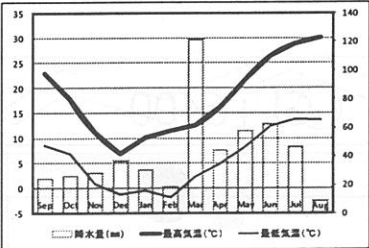
背景

20世紀後半になり、幾世代もの人々が残した歴史的に重要な記念建造物の保全と修復のための国際憲章がヴェネツィアで制定された。(1964年ヴェニス憲章)
それから半世紀が過ぎ、現在は近代建築の保存・修復が求められている。しかし近代の建造物の中には、戦争や人種差別などの歴史を持った「負の遺産」が存在する。

ラクイラ概要

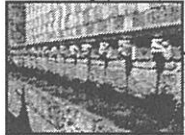


Country Italy 国名 イタリア
Region Abruzzo 州 アブルッツォ
Province L'Aquila (AQ) 県 ラクイラ
Elevation 714 m (2,343 ft) 標高 714m (2,343フィート)
Area 466 km² (179.9 sq mi) 面積 466km² (179.9平方マイル)



2007/9-2008/8 平均気温・降水量

Fontana della 99 cannelle
街には99個の教会・噴水・広場があり、99の蛇口(正式にはリヴェラの噴水)では99個の顔から水が湧き出しており、水が豊かなラクイラを象徴している



piazza Doumo
街の中心部に位置する広場で、朝市やお祭りがここで行われている。地下にはバスターミナルに続く地下道がある



main street
街を十字に走るメインストリートは広場や教会、市庁舎などを結んでいる



城からほど近い広場には、かつてバスターミナルが存在した



San Bernardino
1480年に造られた大聖堂
ルネッサンス様式で美しい彫刻が施されている



k05118 宮島 麻実

2008年度のラクイラ大学との短期交換留学プロジェクトのワークショップのテーマは「ラクイラにおける旧精神病院とその周辺の復興」であった。その経験を通じ、精神病院も「負の遺産」の一つではないかと考え、現在それらの建物の使用方法に興味を持った。イタリアでは1978年に成立したバザリア法により、全ての精神病院を廃止した。人々はそれらをどのように捉え、また今後どのように保存・修復していくのか。
今ラクイラの街は何を必要としているのかを現地で行った質問票をもとに分析し、設計に反映させていく。

ラクイラワークショップの最終プレゼンテーション会場での質問票

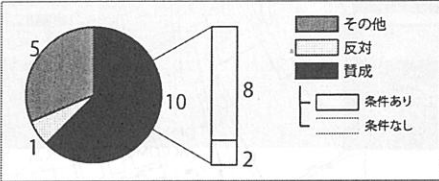
調査実施日: 2008年10月3日
有効回答数: 16
調査対象: ラクイラ市民(大学教授・学生を含む)

- 1) イタリアにおける近代建築を保存していくことに対してどのように考えていますか
- 2) 1の理由をお答えください
- 3) マニコミオの存在についてどのように考えていますか
- 4) マニコミオの建物が壊されることに対してどのように考えていますか
- 5) 現在のコレマッジョに対してどのような印象を持っていますか
- 6) 今回のワークショップの中で最も評価できる作品を一つ挙げてください
- 7) その評価理由をお答えください

<1・2>

・歴史的建造物の近くに新たなものを建設することは可能ですが、その歴史とプロジェクトの本旨を踏まえた上で新しい要素を加えていかなければなりません。
・過去を忘れないことは重要ですが、コンセプトを明確にすることはとても難しいことです。明確なコンセプトを持つものは良いと思いますが、過去の構成をコピーすることで歴史を表現するものは評価できません。

<4>



<3>

- ・必要な専門機関である
- ・将来のために保持していかなければならない歴史的遺産である
- ・必要な機関だが、近くに住むには不安がある
- ・都市のために利用されるべき
- ・町にとっての唯一の緑地
- ・歴史的に重要な場所

<5>

・歴史的建造物として重要です。しかし今日では街とラクイラの市民とのよい関係を持っていません。
・コレマッジョはラクイラにとって重要な歴史的で宗教的なシンボルです。
・今日では良い建築物の一つですが、教会の周りの土地が良い印象を持っていなかったため、街との良い接続がありません。

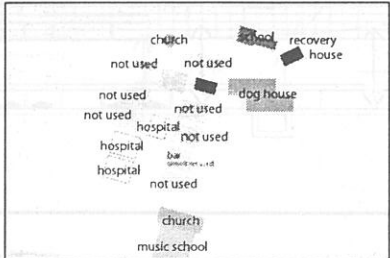
分析



アンケートの結果からわかるように、市民はコレマッジョに対してあまり良い印象を持っていない。その裏付けが交通計画にも現れており、市街地から丘への良いアクセスが存在しない。そのため市民が丘を訪れる機会は少なく、これによりまた街との距離が遠くなっている。
しかしこの丘をラクイラという単体の街ではなく、周辺の街(農村)との位置関係で考えてみる。するとラクイラの東にある街との境界に位置することがわかる。この地域は近年住宅の建設が進み、新たな街としての形成を遂げようとしている地域である。城壁で囲まれた街の中だけではなく、もっと広い視野で見た時の中心部、piazza—広場—のような存在としての活用が可能ではないかと考える。

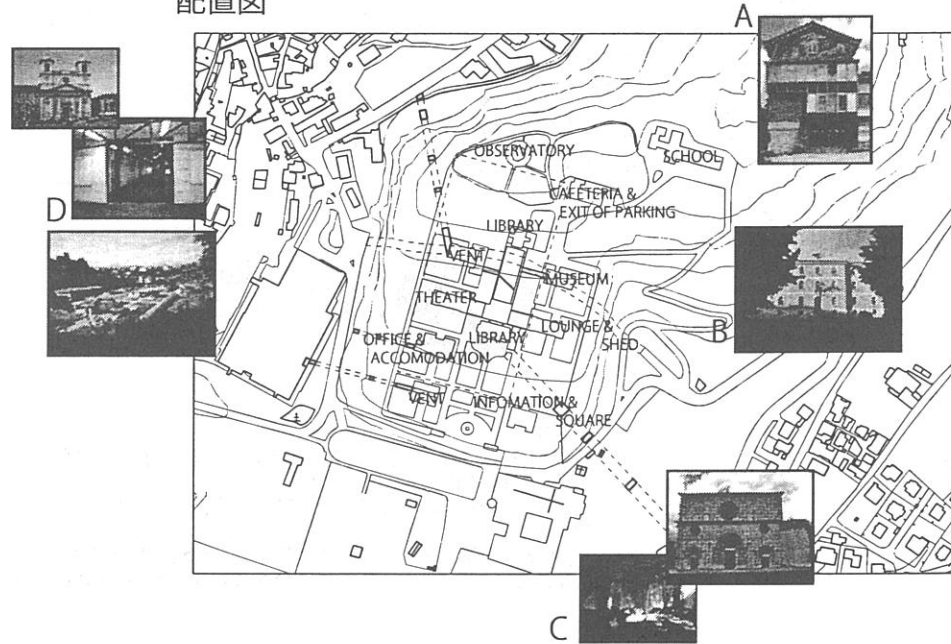
下の図にもあるように、現在はほとんどの建物が有効活用されておらず、廃墟と化している。
しかしこの丘には歴史的に重要な教会と、2つの学校が存在している。それらを軸として人の流れをつくり、市街地の広場同等の集客力を見込むことのできる空間にする。
また、この丘の下には街と街をつなぐトンネルが設けられているが、現在はあまり使用されていない。そのため、現在存在する交通網・施設を活かしていくことが可能であり、要求されるのではない。

現在の使用状況



- 1287 教会 (Santa Maria di Collemaggio) の設立
- 1854 教会に道路がつくられる
- 1900 精神病院の設立
- 1930 教会の前に広場がつくられる
- 1960年代 創建当時の他に敷地内に建物がつくられる
- 1978 精神病院の廃止
- 1993 映像学校の創立

配置図



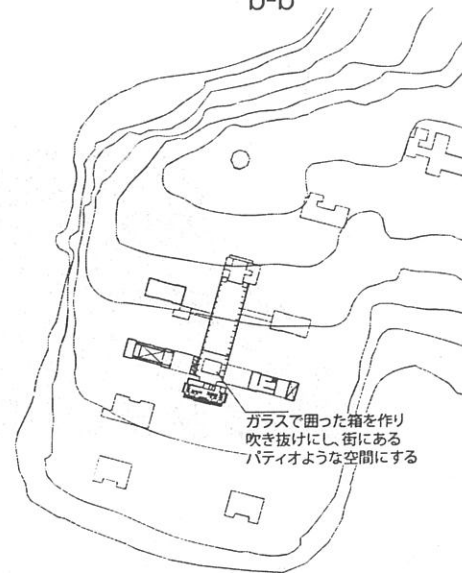
A: Accademia dell'Imagie
1993年に設立した映像学校
かつての外科・薬局だった建物がそのまま使われている

B: Main building
マニコミオ時代のメイン病棟
動線・位置ともに中心に位置する
今回の設計においても中心的な意味合いを持つ

C: Santamaria di Collemaggio
ラクイラでも最も重要な教会のひとつ
かつての修道院は現在音楽学校として使われている
また、一年に一度しか開かないドアを持つ

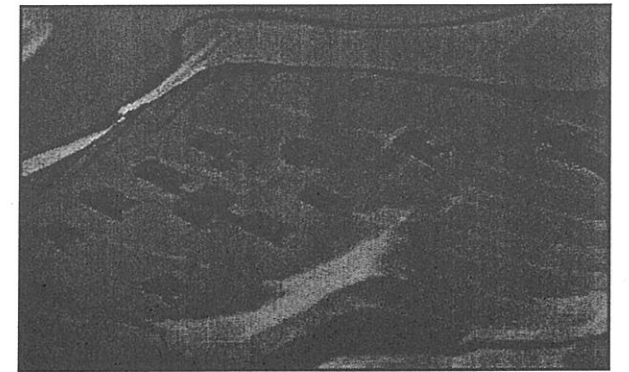
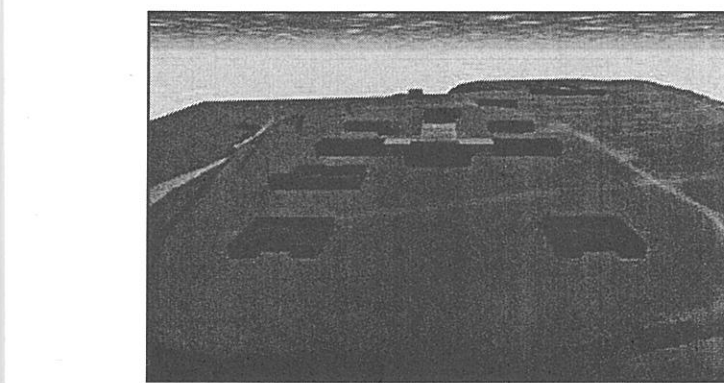
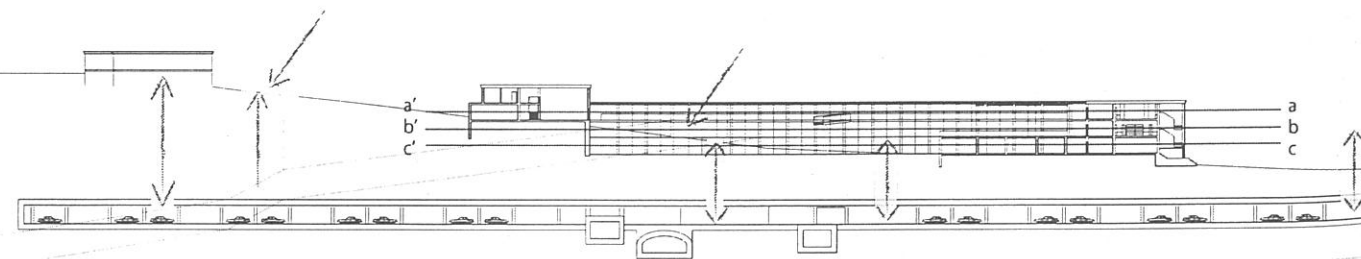
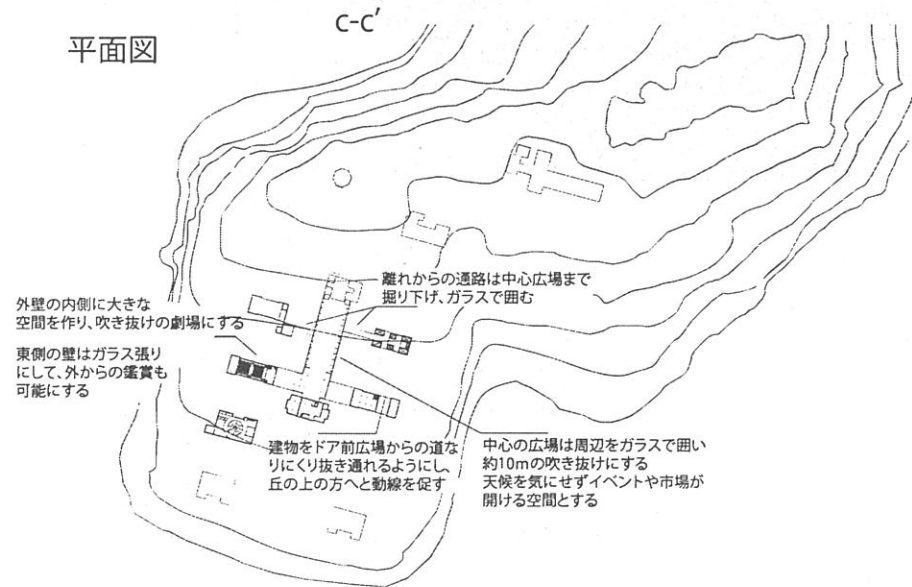
D: Bus terminal
街と丘との間にある谷を埋めてつくられている
地下道で市街地とつながっている

b-b'



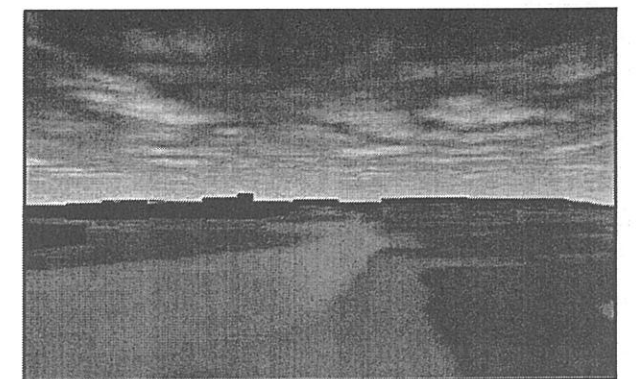
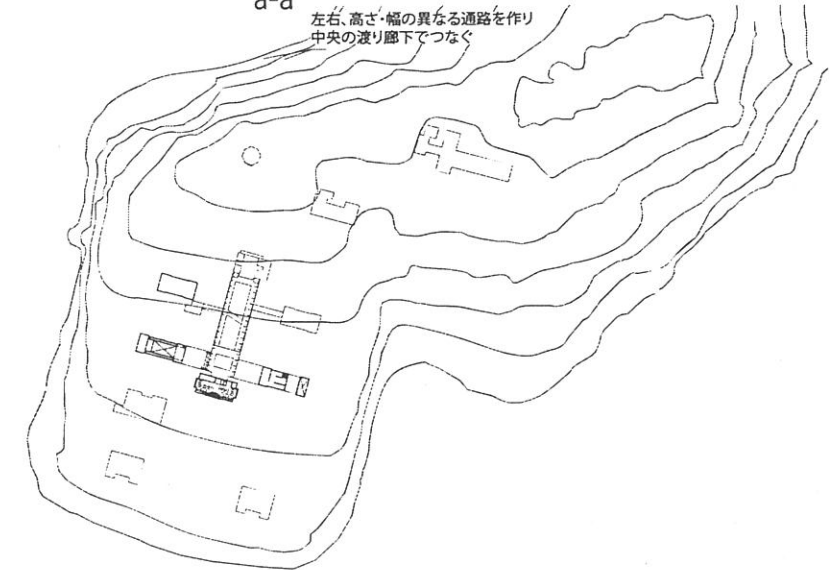
平面図

c-c'

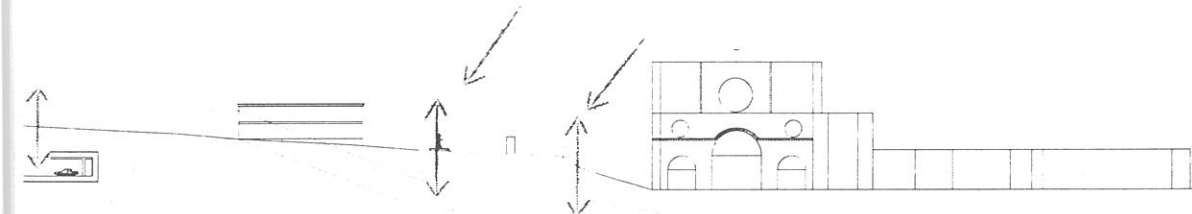


a-a'

左右、高さ・幅の異なる通路を作り
中央の通り廊下でつなぐ



↑ people
↓ air
↙ light



断面図